

## 例 言

1. 本概報は、法隆寺における防災工事及び収納庫建設工事に伴う昭和58年度における発掘調査の概要をとりまとめたものである。
2. 防災工事およびこれに伴う発掘調査のため法隆寺防災工事委員会を設定し、太田博太郎・倉田文作・坪井清足・岸俊男・工藤圭章を委員に依嘱し、その後工藤圭章の文化庁転出に伴ない、岡田英男に依嘱した。昭和58年1月23日倉田文作逝去のため、後任を濱田隆に依嘱した。発掘調査は奈良国立文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県文化財保存事務所などが共同で実施した。
3. 本概報の作成にあたっては、編集小委員会を設け、高田良信、森郁夫、堀内啓男、亀田博がこれにあたり、本概報の構成を定めた。
4. 本概報に収録した昭和53年度から昭和55年度までの調査概要は、『奈良国立文化財研究所年報』1981、『奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査概報』昭和53・54・55年度、昭和55年度の調査概要は『奈良県遺跡調査概報(第二分冊)1980年度』を要約した。昭和56年度及び57年度調査については、『法隆寺発掘調査概報Ⅰ』・『同Ⅱ』にその成果を報告した。
5. 本概報の作成は、法隆寺防災工事委員会および発掘調査小委員会の指導のもとに、調査参加者がこれにあたった。法隆寺防災工事委員会委員で発掘調査小委員会の岡田英男には細部にわたって指導を受けた。執筆分担は下記のとおりである。

第一部 I-1 堀内啓男(県文化財事務所)、I-2 森郁夫(奈文研)、I-3 亀田博(橿考研)、II 亀田博、III-1 毛利光俊彦(奈文研)、III-2 西弘海(奈文研)、III-3 工楽善通(奈文研)、IV 森郁夫

第二部 I 森郁夫、II 亀田博、III-1 毛利光俊彦、III-2 西弘海、III-3 工楽善通、IV 森郁夫。
6. 遺構・遺物の写真は八幡扶桑(奈文研)・佃幹雄(奈文研)・今西良男(県文化財事務所)が担当した。編集は森郁夫が担当し、石川千恵子(奈文研)・玉城妙子(橿考研)がこれに協力した。
7. 昭和58年度検出遺構図の縮図は主として玉城妙子・宮本裕史・西尾法子が行い、製図は玉城妙子が行なった。